

# 卒業生インタビュー

Interview

にしまつ ひでき  
大津市教育センター 指導主事 **西松 秀樹**さん



- Profile
- 1985年3月 教育学部小学校教員養成課程卒業
  - 1985年4月 大津市公立中学校教諭に採用
  - 1992年4月 滋賀大学大学院教育学研究科入学
  - 1994年3月 同大学院修了
  - 1995年7月 滋賀大学教育学部非常勤講師(～2000年)
  - 1998年 学校心理士資格取得
  - 2001年4月 滋賀県総合教育センター研究員
  - 2005年4月 人事交流により、滋賀大学教育学部助教授(2007年に准教授)
  - 2008年4月 大津市教育委員会学校教育課指導主事
  - 2009年4月 大津市教育センター指導主事(グループリーダー)

**Q.** 大津市教育センターではどんなお仕事を?

**A.** 10年経験者研修や初任者研修等の教員研修、学力向上に関わる調査研究を行っています。

**Q.** 教員を目指されたのは、なぜ?

**A.** 小学校や中学校で、「恩師」と呼べる先生との出会いがあったからです。また、友だちにわからないところを教えてあげると、とても喜んでもらったことから、先生という仕事に魅力を感じました。

**Q.** 滋賀大学を志望された理由と、学生時代の思い出を聞かせて下さい。

**A.** 高校の先輩から「滋賀大はいいよ」と勧められ、志望しました。アットホームで友達や先生との距離が近く、とても居心地がよかったですね。卒論もマンツーマンで指導していただき、心理学研究室の仲間達と一緒に北海道や九州などへ旅行に出かけたことも良い思い出です。

**Q.** 学生時代を振り返り、今大学に期待することは?

**A.** 当時は校舎も木造で古く、設備も十分ではありませんでした。また、教育実習以外に附属学校へ行く機会もなく、小・中学校の授業を参観する機会も少なかったですね。でも、その後、校舎や食堂も新しくなり、今では早い時期から観察実習や学校支援ボランティアが導入され、体験を通して子どもを理解できるカリキュラムになっています。私の場合、教員1年目はとまどいの連続だったので、卒業までに教科指導、生徒指導などの職務に支障がないよう、実践的指導力が身につけていると良いと思います。もちろん、総合的な人間力や専門分野の力量も必要で、バランスの良い指導を期待しています。

**Q.** 中学校教員としてのやりがいは?

**A.** 中学時代は子どもから大人へと変化する過渡期にあたり、不安定になる生徒も多く、手がかかることもあります。その成長を間近に見ることができます。特に文化祭や合唱コンクール、卒業式などの行事では、感動の連続です。

**Q.** 教育の現場を離れ、大学院に行かれたのはなぜですか?

**A.** 中学校の教員として7年間の勤務が終わるころ、校長先生から一度学校を離れ、広い視野に立って学び直してみてもどうかと、大学院への入学を勧めていただきました。大学院での経験は教育を考え、実践するうえで大変有意義で、大学よりはるかにインパクトのある2年間でした。現在の仕事にも、おおいに役立っています。



教師に必要なのは  
力量・情熱・実践そして人間力!  
本気で学ぼうとする学生に、  
滋賀大は必ずこたえてくれます。

**Q.** 学校心理士とはどんな資格ですか?

**A.** 「学校心理士」は学校生活における様々な問題について、カウンセリングなどによって子ども達への直接的な心理援助を行うとともに、子ども達を取り巻く保護者や教師、学校に対しても、「学校心理学」の専門的知識と技能を持って、心理教育的援助サービスを行うことを目的としています。

**Q.** 母校で学生を指導して感じたことは?

**A.** 人事交流によって母校への勤務が決まったことはまさに驚きでしたが、恩師にもあたたかく迎えていただき、嬉しかったですね。近隣の学校と教育学部の連携を図る「地域教育支援室」の仕事や「教室の心理学」、「学校教育実践論演習」、「キャリアデザイン論」などの講義、学生への指導など、毎日がとても刺激的でした。教師になりたいという前向きな学生が大変多く、彼らとは今も交流が続いています。

**Q.** 後輩へのメッセージをお願いします。

**A.** 教師には、「教職に対する情熱」、「教育の専門家としての力量」、「総合的な人間力」そして「実践的指導力」がバランスよく身に付いていることが大切。それらを本気で身に付けたいと望めば、滋賀大学にはこたえてくださる先生方がたくさんおられます。後輩の皆さんが教師というやりがいのある仕事に就いて、活躍されることを期待します。

## 取材を終えて

子ども達の成長を間近に見ることができる喜びもさることながら、自分が教えた子ども達が教師となり、次世代の育成に携わるのを見るのも教師としての醍醐味ではないでしょうか。まさにそれを体現しているのが西松さん。教師になって26年。より良い教育を行うには教師間のチームワークも大切と、多忙な中にも互いにコミュニケーションをとることの必要性を説いています。

